ブログ炎上についての分析

2013/1 月

慶應義塾大学商学部
濱岡豊研究会 10 期生
富澤　司

概要
インターネット上で、誰もが発信可能な「ブログ」の普及により、「ブログの炎上」が起きるようになった。炎上とは、ブログにおける記事に対して、読者から多くの批判的なコメントが集中し、それが過激化する状態である。本研究では、ブログの炎上がどうして起きるのか、訪問者が炎上に対してどのように思っているかを明らかにした。炎上についてのは、炎上許容度と定義した。炎上許容度と、炎上したブログの著者評価、性格において仮説と、シナリオ法によるブログを作り、どのタイプのブログが炎上しやすいかを検証した。その結果、インターネットについてより深い理解をしている人ほど炎上について許容し、炎上したブログは早期に謝罪をすべきとの結果が出ました。

キーワード
炎上、インターネット依存、ブログ

Analysis of the flames Blog

2013/1
Keio　University,Faculty of Business and Commerce
Hamaoka Yutaka Seminar 10thclass
Tsukasa Tomizawa

Abstract
On the Internet, the spread of the "blog" can be outgoing, nobody is "burning of the blog" is now happening. And burst into flames, is a state in which an article in blog, many critical comments from readers is concentrated, it is violent. In this study, I made it clear why the blog or burning occurs, visitors against flames or how you think. For burning is defined as the tolerance of flames. We have evaluation and verification of the blog author tolerance and burst into flames, went up in flames, and to create a blog hypothesis, by scenario method in personality, what type of blog tends to burst into flames. As a result, the results allowed for the flames about a person with a deeper understanding of the Internet, blogs that went up in flames is that they should offer an apology came early.

Keywords
Flaming,Internet dependence,blog

目次

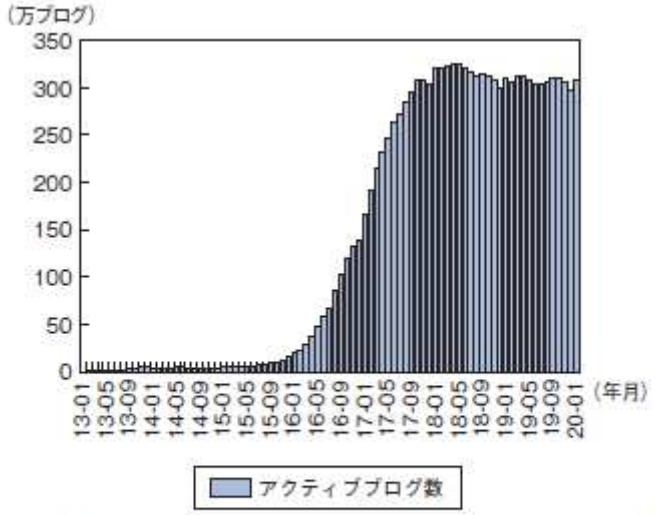
１．はじめに
　　１－１　本研究の目的
　　１－２　言葉の定義
２．事例研究
　　２－１　衆議院議員　長島昭久氏の事例
　　２－２　亀田製菓の事例
　　２－３　アメーバブログスタッフの事例
３．先行研究
　　３－１　先行研究のレビュー
４．仮説設定
　　４－１　仮説設定理由
　　４－２　仮説
５．分析
　　５－１　調査の実施
　　５－２　単純集計
　　５－３　分析結果
６．考察
　　６－１　検定結果一覧
　　６－２　考察
７．実務へのインプリケーション
８．課題と今後の展望
９．参考文献
付録１　調査票
付録２　単純集計結果

１．　はじめに

企業や有名人は自身を宣伝するために、テレビや新聞広告などのマスメディアを利用するのはもちろんのこと、近年はフェイスブックやブログなどのソーシャルメディアを利用することが多くなってきた。そんな中インターネット上では誰もが簡単に情報発信が可能になり、「炎上」が起きるようになってきた。炎上とは、ソーシャルメディア上でのとある発言に対して読者から批判的なコメントが集中することである。しかし、炎上がネット上だけに止まればいいが、近年は過激化しブログ著者の勤務先に誹謗中傷の電話や、住所特定などがされプライバシー侵害が起きる問題が多発している。その結果ブログ著者の評価が低下、ブログ訪問者数の減少またはブログ閉鎖に追い込まれて、さらには現実の活動に大きく影響を及ぼす事もあるであろう。

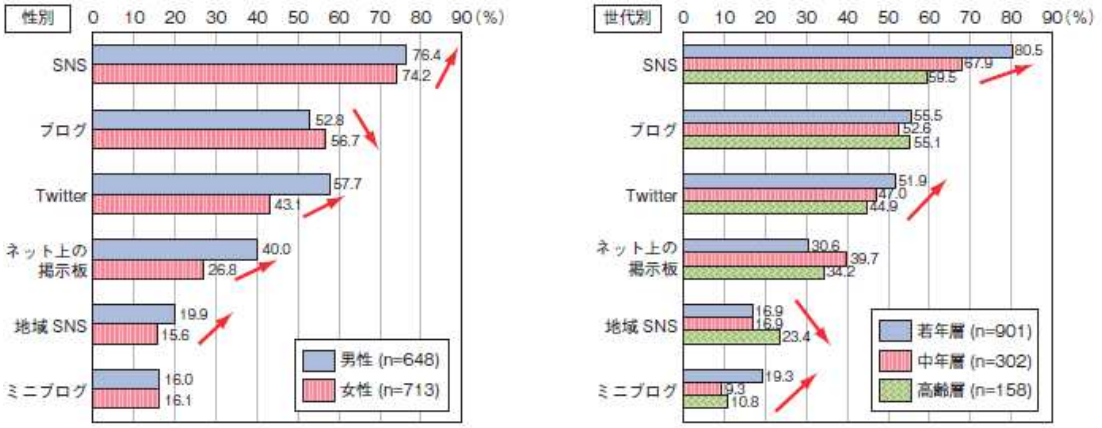
そこで、今回私は研究テーマとして、ブログの炎上について研究することにした。メディアではブログという言葉はあまり耳にしなくなり Twitter やフェイスブックを良く聞くようになっています。ここで何故“ブログ”を選んだのかというと、主に２つあります。1つめには、図１を参考に、現在でもアクティブブログ数が日本においても 300 万以上あり、依然多くの利用者がいる事がわかります。また、図２を見ると Twitter が伸びている事はわかるが拮抗している事が分かる。

図 1　アクティブブログ数



（出典）総務省「ICT インフラの進展が国民のライフスタイルや社会環境等に及ぼした影響と相互関係に関する調査」（平成 23 年）
（総務省情報通信政策研究所「ブログの実態に関する調査研究の結果」（平成 20 年）により作成）

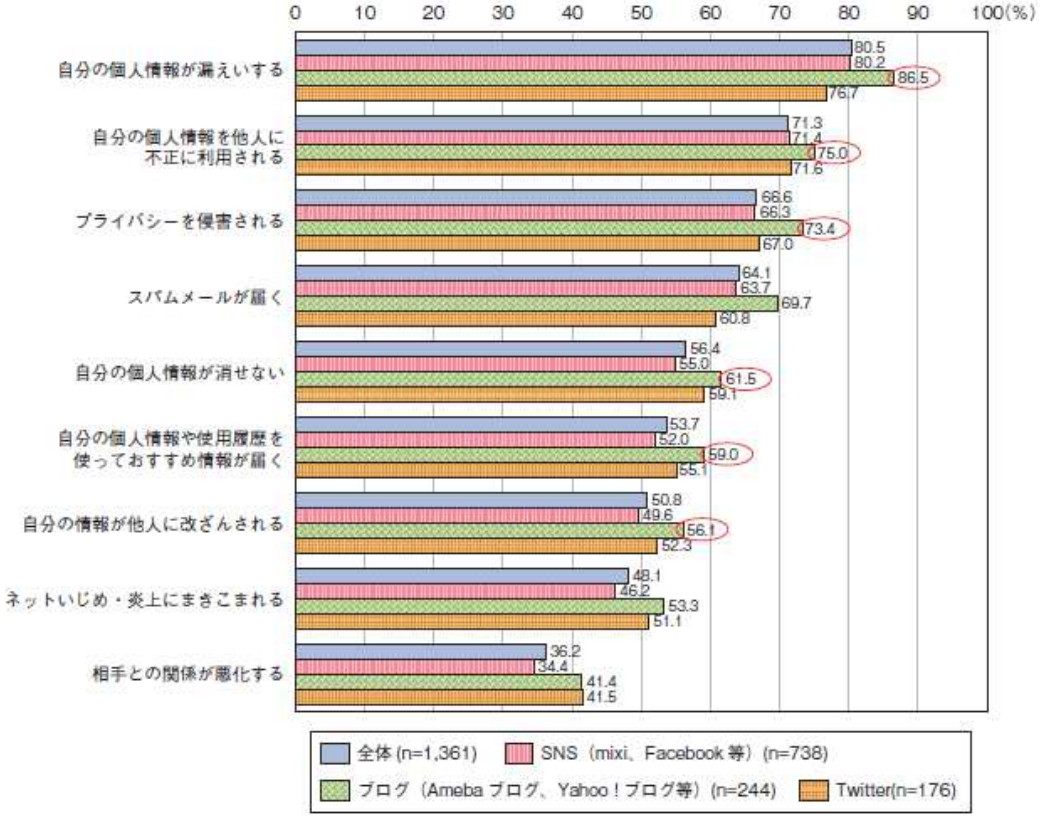
図 2　ＳＮＳ利用について



（出典）総務省「次世代 ICT 社会の実現がもたらす可能性に関する調査」（平成 23 年）

2 つ目には、データが残っている方が多い事です。下調べした際に炎上した Twitter の場合ではデータが残っている事が少なくブログの方が残っていた為選びました。
そして、ブログの炎上についてターゲットした理由としては、図 3 を見ると、ソーシャルメディアを利用している人が不安視している項目の中に、炎上にまきこまれるという項目がある。この点からも、今後のソーシャルメディアにおいては、炎上をどのようにするかが重要な鍵になると考え、私の研究テーマをブログの炎上についてと決めました。

図 3　ソーシャルメディアの不安視項目



（出典）総務省「次世代 ICT 社会の実現がもたらす可能性に関する調査」（平成 23 年）

１－１．本研究の目的

本研究ではブログの炎上に対して、訪問者がどのように感じる、。また炎上の許容度が個々の性格と関係あるのかを調べる。またここで定義する炎上という意味は、「批判的なコメントが短時間で大量に殺到する状態」とする。

２．　事例研究

この章では、ブログの炎上を研究するにあたり、実際に炎上した事例について紹介する。

２－１　衆議院議員　長島昭久氏の事例

長島昭久議員は、自身の活動についての意見などをブログ上で書かれている。炎上が起きたのは 2006 年の 2 月 22 日。当時いわゆる「ライブドア送金指示メール騒動」が起きた時に、問題の真偽がまだ明らかになっていない時でした。長島氏はブログにおいて、「ここで多くを語ることはできないが、この勝負絶対勝てる。今日初めてそう確信した。代表や野田国対委員長があくまでも強気である意味が良くわかった」と書き込んだところ、メールが偽造であった事と強気な発言をしたことにより、800 件近い批判的なコメントが寄せられ、炎上状態になった。

また翌 23 日に「ブログ炎上」というタイトルで根拠を明示しないまま、炎上と真摯に向き合おうとしない記事を書いたことにより、さらに炎上が激しくなってしまった。
しかし、同日夕方には、「『ブログ炎上』などと不謹慎な表現を使ってしまったことお詫びしなければ。寄せられたコメントの大半は真摯なご意見ばかりで、その意味では、俗にいう「祭られた」現象とは異質なのだと思う。」と謝罪し、自身の状況を第 3 者的視点から分析し、記事を書かれた。

その後 24 日 25 日 28 日、3 月 1 日 2 日と 5 回に渡り、押し寄せたコメントや自身の謝罪について真摯な対応を行った結果、コメントの件数へ序所に減っていき、炎上は鎮火してした。

この事例においては炎上→鎮火の流れだけではなく、鎮火後に応援するファンがついた事です。炎上が終わった後にも、ブログのコメントに少なくても 100 件、多いと数百件のコメントが書き込まれていいた。

２－２．亀田製菓の事例

亀田製菓は、自社の工場付近の景色など季節の風景をブログ上で書いていた。炎上が起きたのは 2012 年 4 月 26 日。その日、亀田製菓は韓国食品大手の農心と共同開発や生産技術の提供をすると発表しました。しかし、多くのネットユーザーからは「亀田製菓の商品品質が低下するのではないか」と心配する声がブログのコメントに多く寄せられた。心配した理由としては、農心が販売する「辛ラーメン」に異物が混入したとするニュースが過去に報じられためだと考えられます。

提携当日に自社敷地内でサクラが咲いた事をブログの記事に書いた所、事業提携についての記事などは無いが、1 万件以上のコメントが寄せられる事となった。

その後も、2 件ほど自社敷地内の季節の移り変わりに関する景色の記事などを書き、コメントに関しては無視する形で運営が行われていたが、10 月 10 日にすべての記事を削除し閉鎖されることとなってしまった。

また、この事件会社ブログのみで止まらず、アマゾンなどの通販サイトの自社製品についてのレビューにまで飛び火する自体となっており、現在でも収まっていません。

２－３．アメーバピグスタッフブログの事例

アメーバピグでは、自社で行うイベントやアイテム情報などアメーバピグの楽しみ方についてブログ上で書いている。炎上が起きたのは、2012 年 3 月 12 日。その日、「青少年のみなさまが安心安全にアメーバピグをお楽しみいただけるよう、2012 年 4 月 24 日以降、15 才以下の方を対象として、ピグの一部機能に利用制限を設けることになりました」という記事を書きました。一部制限とありますが、実際はほぼすべての機能制限といっても過言ではない期生が実行される事になり、15 歳以下と思われる人々のコメント書き込みが殺到し炎上が起きました。このケースでは、15 歳以下を煽る目的でコメントを書き、そのコメントに対してコメントを仕返すというコメント同士での争いも起き 2 つの要因により多くのコメントが書き込まれました。また別の記事に対しても利用制限反対のコメントが殺到しており、亀田製菓のケースと近い事が起きています。その後のブログの記事には、自社のイベント告知などが行われており、現在も同じようにブログは運営されている。
コメントについては、現在では沈静化されている。

３．先行研究

研究にあたり、炎上に関連する事について、既存の研究がどのようなものであったかを関連する分野にまたがり概観する。

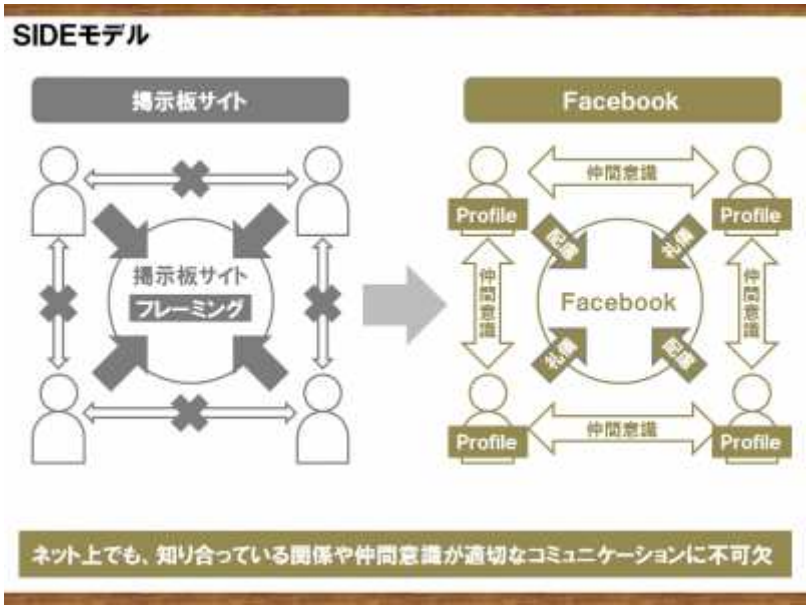
３－１－１．炎上が起きてしまう理由に関する研究

ネット上での炎上が起きる理由を考える上で重要なのが、対面同士であればお互いに配慮し合うのにも関わらず、ネットという顔が直接見えない同士になると炎上につながってしまうかである。

ここでは、高比良(1999)の ネット上での礼儀や秩序に関する研究実験を取り上げる。高比良は M.リー、R.スピアーズによる仮説における、顔が見えない環境であって仲間意識が強ければ、まわりの意見への同調や配慮が見られるという理論の元実験を行ったところ、その通りになった。一方で、「相手の顔が見えず、仲間意識が弱い状況に割り当てられた被験者が、一緒に討論を行った集団全体の意見に合わせるような行動を示さなかった。」としている。

このことから、フェイスブックでは個人のプロフィールを開示し、実際に直接知っている相手の、もしくは直接知っている相手の共通知人とのコミュニケーションがベースであり、SIDE モデルを元に考えると相手への配慮や礼儀が見られるメディアとなっている。これに対して、掲示板サイトでは、相手が誰であるか分からないために互いに信頼出来ずに炎上へと発生してしまうのではないかと考えている。

図 4　ＳＩＤＥモデル



３－１－２．インターネット依存症について

ここではインターネット依存症について、キンバリー・ヤング（1996）の実証研究を取り上げる。ヤングは、アメリカ精神医学界による「診断と統計マニュアル」における精神性物質依存症の定義を適用し、それをインターネット利用にあてはめた。表参照（ｐ５８）また 1997 年には、ヤングはインターネットの持つ 3 つの側面が、潜在的に依存を引き起こす要因となっていると述べている。1 つ目が、匿名性。2 つ目が利便性。3 つ目が逃避性。言い換えるとインターネットある特に対して、特定の人々が特に魅力を感じるといえるだろう。特定の人々の例として、ギャンブルやオンラインゲームをしている人としている。そしてその人々がそれぞれの属性に当てはまる理由として、匿名性においては、自身の欠如や問題を消す事が出来る事。利便性においては、経験を通じて気分を変容出来る事。逃避性としては、日常生活から逃れられるとしている。

３－１―３．自分を偽ることと可能自己

ここでは自分を偽ることと可能自己について、カーティス(1997)を取り上げる。
カーティスは MUD s (病的インターネット利用)における個人的な記述の多くが「謎めいているが明らかに力強い」人物像であることを指摘し、バーチャルな世界でのペルソナ（人間の外的側面）の発達が願望を充足するための練習となっていると示唆している。インターネットは“一部の利用者”にとっては、彼ら自身が望む可能自己を作り上げ、実践させ、普段は抑圧されている“真の”自己を表出させてくれる所である。平たい文で書くと、インターネットは一部の人に対して現実生活では出来ない、本当の自分で出せると示唆している。

３－１－４．社会的影響を与える鍵となる CMC の社会心理学的特徴

ここでは社会的影響を与える鍵となる CMC の社会心理学的特徴について、キースラーら(1984)を取り上げる。キースラーは次の 6 つに社会心理学的特徴をまとめた。

１．時間と情報処理のプレッシャー：即座にメッセージを送り返事する能力

２．期生フィードバックの欠如：CMC は非言語的手画家ありが欠如しているために、やりとりの規制や修正、統制が非効率になる。

３．修辞技法の弱さ：CMC 利用者は、メッセージを強調するために通常使われるような技法を使うことが出来ない。

４．地位を示すための手がかりの少なさ：「いったんオンラインにアクセスすると、その人の身分や勢力、社会的地位は、文脈からも、やりとりの中からも伝達されない」

５．社会的匿名性：CMC ではコミュニケーションにおける「他者」がしばしば忘れられてしまうので、没個性的になるかもしれない。

６．コンピューターの規範と未熟なエチケット：コンピュータ・サブカルチャーが存在しないところでは、CMC 利用のためのエチケットがあまり発達していない。

この中で、キースラーらは、２つの特徴を確認している。1 つ目は社会的文脈情報の欠如、2 つ目は広く共有された規範がほとんど存在しないことである。キースラーらによるとこの２つが結びつき炎上が引き起こされるとのことである。

３－１－５．オンライン上の規範

ここでは、オンライン上の規範について、平井（2007）を取り上げる。平井は、集団的属性が顕著なオンライン上の集まり（ファンサイト、ＳＮＳ，電子掲示板など）は数多く存在しており、各々に一定の規範とそれに基づいた行動が確認される。すなわち、内集団のやりとりにおいて低次元で俗悪な表現が数多く見受けられたとしても、それが敵意や反社会性を意味するとは言い切れない。むしろ、信頼や帰属意識を意味するかも知れないのである。反対に敬吾のように丁寧な表現を使用する方がネガティブな意味合いを持つ場合もある。ここには内輪の関係性に基づく規範が認められるのである。

ようするに、そのコミュニティ内において暴言が出ていたとしても、そこでは普通である場合もあり、一概にそれを炎上状態とは言えないということであるとのこと。

３－１－６．日本のブログ文化

ここでは、日本のブログ文化について山下ら(2005)を取り上げる。日本のブログ文化には「ウェブ日記」との連続性が垣間見られるという。日記スタイルのコミュニケーションおよびそのメッセージ特徴については、自己言及性、モノローグ性、内輪性などがあげられる。こうした特徴をもつメッセージが不特定多数の他者の目に触れる場合、ミス・コミュニケーションが起きる可能性が高くなると述べている。

３―１―７．項目反応理論を用いたインターネット依存度傾向尺度の傾向

ここでは、インターネット依存度傾向尺度について、菱山(2009)を取り上げる。こちらの論文は、仮説でも後ほど取り上げるが、インターネット依存度についてのアンケート項目の参考とした。

３－１－８．インターネットにおける「右傾化」減少に関する実証研究

ここでは、インターネットにおける「右傾化」について、辻(2008)を取り上げる。こちらは、炎上に関するアンケート項目とアンケート結果の数値を、自身のアンケート項目の参考とした。

３－２．先行研究のまとめ

研究者名	内容
高比良(1999)	互いに相手を知らないからこそ、炎上が起き広がる
キンバリー（1997）	インターネット依存症を起こす要因は、匿名性・利便性・逃避性
カーティス（1997）	インターネットは一部の人にとっては本当の自分を出す事が出来る
キースラー（1984）	社会的文脈情報の欠如と広く共有されたルールが無いと炎上する
平井（2010）	各々の集団にはある一定のルールが存在する
山下（2005）	各々のブログにはルールがあり、他のグループとの接触により炎上する
菱山（2009）	インターネット依存に関するアンケート参考
辻（2008）	炎上に関するアンケート項目の参考

４．炎上に関する仮説設定

４－１．仮説設定理由

本研究では、炎上がブログの訪問意図や、著者評価の低下に繋がる事と、個人の炎上に対する許容度はネットに対する考え方とどのような関係があるかを明らかにする。選考研究と事例研究を踏まえ、仮説の定義付けを行う。

まず、本研究における炎上についての定義を、先行研究と事例研究を踏まえたうえで設定する。事例研究においては、炎上というのは、短期間において連続的に批判的なコメントが殺到・またはそのコメントに応酬しコメント欄で議論が発生する状態である事が分かった。よって、今回の研究においては、短時間において批判的なコメントが殺到すると定義する。炎上に関して直接関与する人というのは少ないため、今回は炎上許容度というのを設定し、炎上をどの程度許せるかというのを設定した。

続いて、今回は独自の考察として、炎上したブログについて訪問意図と著者評価に影響があるかを調べる。炎上＝悪い事として、訪問意図・著者評価は下がると思われているが実際はどうなのか調べた研究がなかったので、こちらを設定。

そして、炎上を許容する人のインターネットにおける考え方を調べる尺度として、インターネット依存度・ネット上のルールを良く守る人・インターネットへの信頼性の３つを設定。

インターネット依存度については、先行研究のキンバリー(1996)とキースラー(1994)の論文から、インターネットに依存している人は炎上に関わりが強いと判断し仮説に入れた。

ネット上のルールを良く守る事については、先行研究のキースラー(1984)と平井（2007）山下ら（2005）を参考に、炎上というのはネットにおけるルールを逸脱したものと考えたため、ネット上でルールを良く守る人ほど炎上には関わらない・また炎上を嫌うと判断し仮説に入れた。

インターネットへの信頼性については、先行研究の高比良（1999）を参考に、インターネットの情報について信頼していない人は炎上について興味がない・また嫌悪感を抱くために炎上に対して嫌う・興味がないと判断し、仮説に入れた。

コンジョイント分析においては、ブログの炎上している例として、不謹慎・反社会・誹謗中傷を取り入れた。この３つをあげた理由としては、著者がネット炎上のタイプを目視した際にこれらに関する記事が多いと感じ、選びました。

著者対応についての方法も、事例から参考に取り入れた。

対応の期間については尺度として、とても早い・普通程度・遅いの３つの尺度で意見を取り入れたいと思っていたため、その尺度にあう期間として適当なものを選んだ。

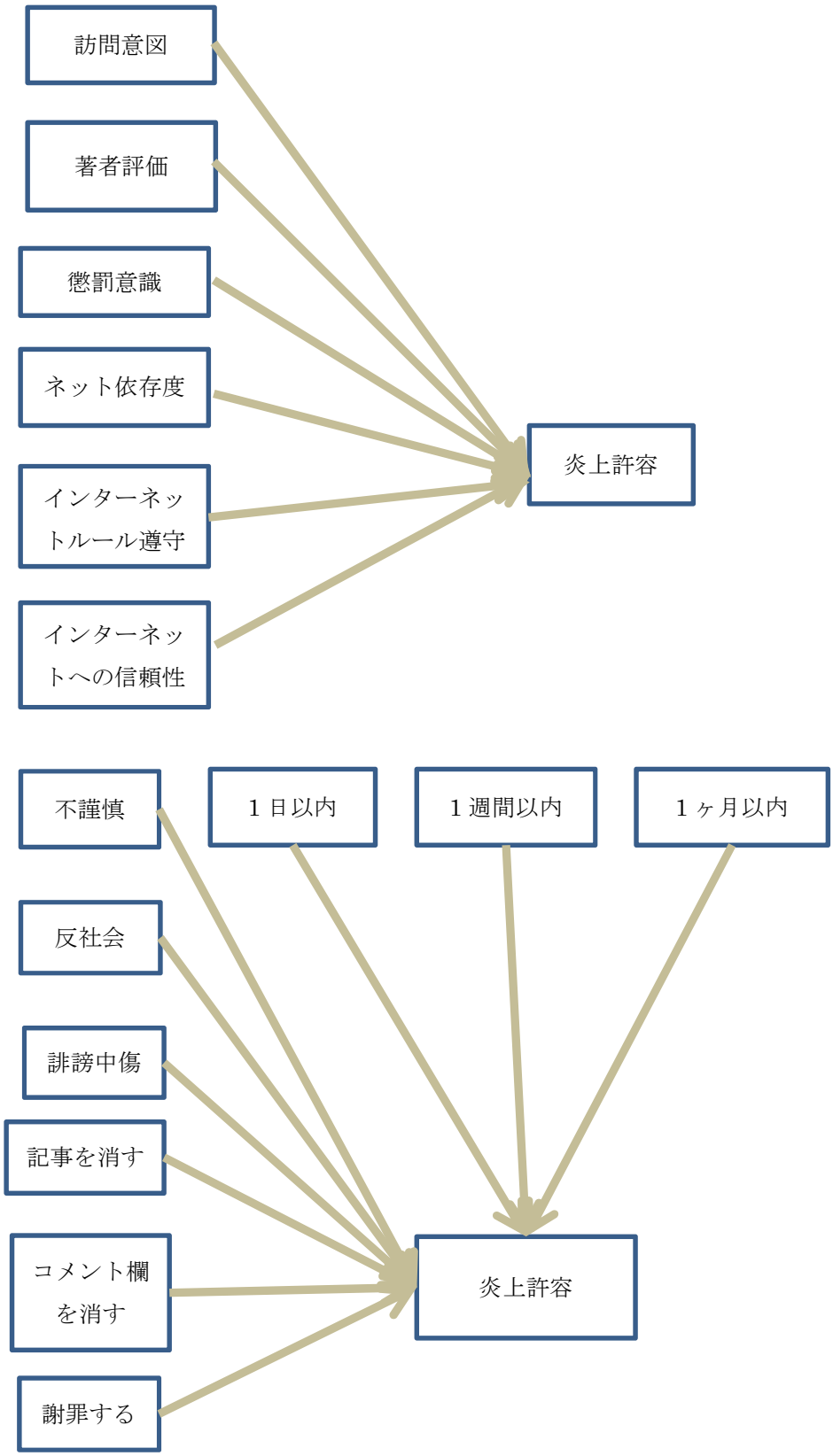
４－２．仮説

次に、以上の概念を元に仮説を以下のように設定する。

H1-1　炎上したブログの訪問意図と炎上許容には負の相関がある
H1-2　炎上したブログの著者評価低下と炎上許容には正の相関がある
H1-3　懲罰意識を持つ人は炎上肯定に正の相関がある
H1-4　ネット依存度の高い人は炎上肯定に正の相関がある
H1-5　ネット上のルールを良く守る人は炎上肯定に対し負の相関がある
H1-6　ネットへの信頼性の低さは炎上肯定に対し負の相関がある
H2-1　炎上しているブログ内容が不謹慎であると炎上に正の相関がある
H2-2　炎上しているブログの内容が反社会であると炎上に正の相関がある
H2-3　炎上しているブログの内容が誹謗中傷であると炎上に正の相関がある
H2-4　炎上しているブログ著者の対応が、記事を消すであるとであると炎上に負の相関がある
H2-5 炎上しているブログブログ著者の対応が、コメント欄を消すであると炎上に負の相関がある
H2-6 炎上しているブログブログ著者の対応が、謝罪するであると炎上に負の相関がある
H2-7 炎上しているブログの著者対応が、遅いほど炎上に負の相関がある
　H2-7-1 炎上しているブログ著者対応が、1 日以内であると炎上に負の相関がある
　H2-7-2 炎上しているブログ著者対応が、1 週間以内であると炎上に負の相関がある
　H2-2-3 炎上しているブログ著者対応が、1 ヶ月以内であると炎上に負の相関がある

パス図は以下の通りになった。

表 5　仮説パス図


訪問意図
著者評価
懲罰意識
ネット依存度
インターネットルール遵守
インターネットへの信頼性
炎上許容
不謹慎
1 日以内
1 週間以内
1 ヶ月以内
反社会
誹謗中傷
記事を消す
コメント欄を消す
謝罪する
炎上許容

５．調査の実施・分析方法

アンケート調査を行うため、調査票を作成した。本調査は、2012 年からにかけて行った。対象は、ネットを積極的に行うと見込まれる大学生とした。有効回答数は 40（回収率 100%）調査票および質問ごとの単純集計結果は巻末に記載した。

質問１においては、年齢、性別のほか、インターネット・テレビの利用時間について。質問２においては、ブログを見る時間、ブログを書いているかの有無、ブログにコメントを残す頻度について。質問 3 では、ブログの炎上についての回数と意見。質問４では、著者評価とブログの炎上について。質問 5 では、懲罰意識、ネット依存度、ネットルール遵守、ネットへの信頼性について聞いた。

著者の対応についての設問

著者の対応が炎上許容度に影響を与えるかを検証するために、著者のブログ放置・著者の対応に関する対応を聞く設問を設置した。それぞれの設問に対して度合いを、「全くそう思わない」～「とてもそう思う」までの 5 段階で回答してもらった。

ネットに関するパーソナリティについての設問

仮説設定に基づき検証に用いる各因子を測定するために、先行研究を参考に各因子に対して、3～４問ずつ、計 14 問を用意し、それぞれの質問にどれだけ当てはまるかを「とてもそう思う」～「全くそう思わない」の 5 段階で回答してもらった。なお、仮説設定における因子と、それに対応する設問は表６の通りとなっている。

表 6　因子に関するアンケート質問項目

インターネット依存	インターネットの無い生活は退屈で虚しくわびしいと不安に思うことがある
	どれだけ長くインターネットを使用していたかを人に隠そうとしがちである
	お気に入りのウェブサイトは毎日チェックしないと不安である
	インターネットは暇つぶしの最良のツールだと思う
懲罰意識	悪いことをしたのであれば、罰を受けるのは当然である
	ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある
	正当な理由があればネット上で叩いてもかまわないと思う
インターネットルール遵守	インターネットには個人情報を書かないようにしている
	掲示板に書き込む際には書き込み前にルールを確認している
	他人に迷惑になるような悪口を書き込まない
インターネット信頼性	ネット上で過激な書き込みや発言があっても、大抵冗談半分で本気ではない
	ネットはあくまで見て楽しむモノで、積極的に参加するようなものではない
	ネットに人を傷つけるような情報が載るのは仕方ない事だ

ブログの炎上に関する特性を計るための設問

どのようなブログの特徴が炎上により拍車を掛けるのかを検証するために、シナリオ法を用いた調査を行った。「ブログ炎上タイプ」、「著者の対応」、「対応までの時間」などの属性と L9 直交表に基づき、それぞれ属性に対して 3 水準、計 9 ﾊﾟﾀｰﾝの仮想のブログを設定した。それぞれに対して炎上しても仕方ないと思う度合いを「非常に炎上しても仕方ない」～「炎上する必要性がない」までの 5 段階で回答してもらう。
属性と水準に関する表と直交表に基づく組み合わせは表 7 の通りとなっている。

表 7　コンジョイント

		水準		
		1	2	3
属性	ブログの炎上タイプ	不謹慎	反社会	誹謗中傷
	著者の対応	記事を消す	コメント欄を消す	謝罪する
	対応までの時間	1 日以内	1 週間以内	1 ヶ月以内

	炎上タイプ	著者対応	対応までの時間
A	1	1	1
B	1	2	2
C	1	3	3
D	2	1	2
E	2	2	3
F	2	3	1
G	3	1	3
H	3	2	1
I	3	3	2

５－３．単純集計

分析に入る前似、各設問に対する平均値、分散、標準偏差、中央値を集計した。この小では平均値のみを示し、その他の数値についてはヒストグラムとともに付属資料として掲載しておく。Q1～Q5 の平均値は図８、図９の通り。

図 8　質問１の単純集計

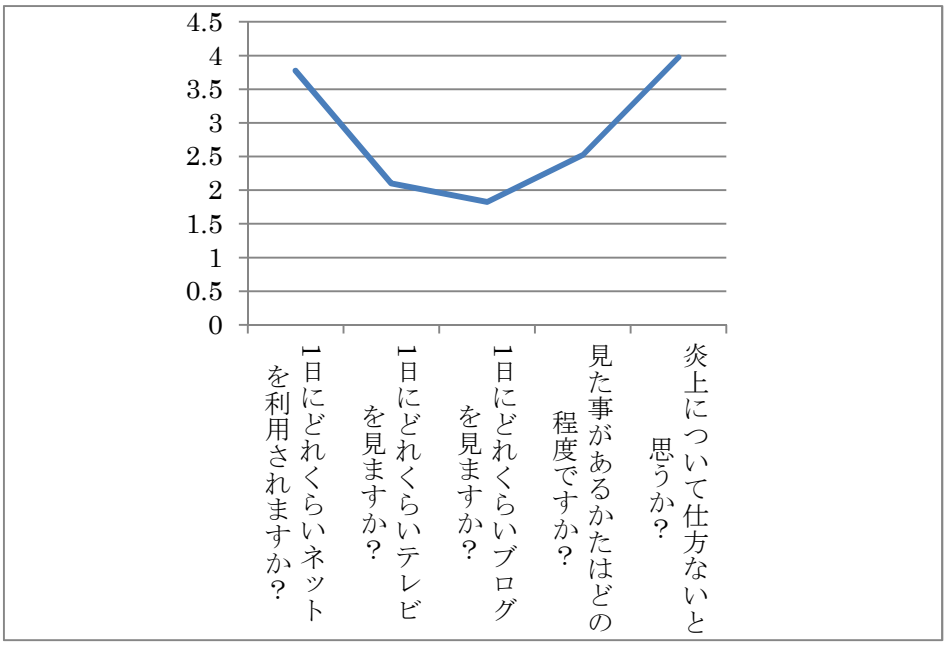
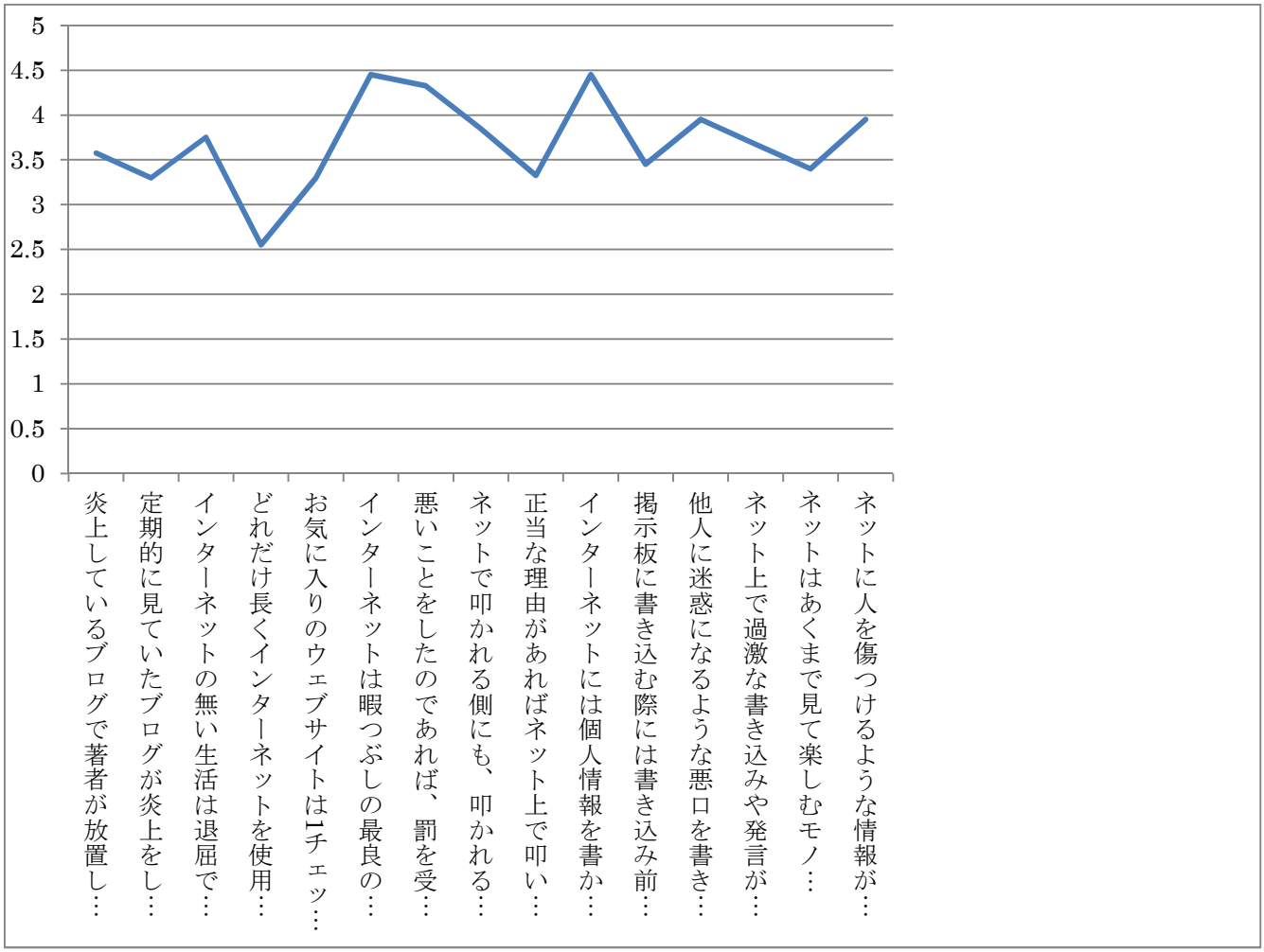


図 9　質問２の単純集計



５－３－１．単純集計考察

Q1 の傾向としてインターネットの利用度がテレビに比べ高苦なっている事が分かる。この結果は、質問２のインターネット依存度の高さの結果にも繋がっている可能性を示唆している。

Q2 についてはおおむね 3～4 点台にまとまっているが､設問の平均値が低くなっている。これはインターネットを長く利用している事は今となっては恥ずべき事ではなく必要な藻のという意識に変わっている理由のためだと考えられる。

５－３－２．仮説検定

アンケート調査によって得られたデータを用いて、仮説検定を行う。分析には、SPSS の統計ソフトを用いた

５－３－２－１．因子分析

質問の概念をまとめるために因子分析を行う。因子抽出方法は、最尤法、固有値 1 以上のものを因子として抽出し、回転法はバリマックス回転で行った。
仮説においては、「インターネット依存度」、「懲罰意識」、「インターネットルール遵守」と因子を設定したが、思うように因子が固まらなかったために、新しく自分で因子を探索的に定義しなおした。順番に、「隠れネット依存」、「軽い懲罰意識」、「ネットを深く理解」、「インターネットルール遵守」、「他人を信頼しない」因子と決めた。上記５つのうち４つはクロンバックα値 0.6 以上出たため、因子間にはまとまりの妥当性があると考える。最後の１つはマイナスになってしまったため利用しない。
これらの結果は表１０の通りとなっている。

表 10　因子分析結果

パターン行列[a]					
	因子				
	隠れネット依存	軽い懲罰意識	ネットを深く理解	インターネットルール遵守	他人を信頼しない
インターネットの無い生活は退屈で虚しくわびしいと不安に思うことがある	-.012	.049	.872	.204	.022
どれだけ長くインターネットを使用していたかを人に隠そうとしがちである	.137	.027	-.207	.175	.559
お気に入りのウェブサイトはチェックしないと	.826	-.325	.291	.049	-.143
インターネットは暇つぶしの最良のツールだと思う	.676	-.051	-.053	-.108	-.056
悪いことをしたのであれば、罰を受けるのは当然である	-.307	.524	.127	.158	-.080
ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある	.128	.911	.181	-.080	-.049
正当な理由があればネット上で叩いてもかまわないと思う	.560	.279	.098	-.063	.162
インターネットには個人情報を書かないようにしている	.377	-.008	.035	.606	.086
掲示板に書き込む際には書き込み前にルールを確認している	-.204	.082	.105	.837	-.043
他人に迷惑になるような悪口を書き込まない	.176	.148	-.172	.095	-.802
ネット上で過激な書き込みや発言があっても、大抵冗談半分で本気ではない	-.017	.630	-.128	.053	-.032
ネットはあくまで見て楽しむモノで、積極的に参加するようなものではない	.438	.142	-.387	.098	-.077
ネットに人を傷つけるような情報が載るのは仕方ない事だ	.258	.130	.412	-.208	.059
因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴うﾌﾟﾛﾏｯｸｽ法					
a. 6 回の反復で回転が収束しました。					
固有値	2.397	1.97	1.498	1.111	1.005
寄与率	24.332	13.899	10.723	6.675	5.999
累積寄与率	24.342	38.24	48.963	55.638	61.637
クロンバックα	0.668	0.697	0.618	0.653	-1.117

５－３－２－２．重回帰分析

因子分析の結果を踏まえ、重回帰分析を行う事によって各要素が炎上許容にどのような影響を与えているか明らかにする。仮説検定のため重回帰分析（強制投入法）を行った。結果は以下の表１１の通りとなった。なお、分析前に単回帰分析を行ったが同様な結果であった。

表 11　因子の多重回帰分析

	B	t値	有意確率
(定数)	0.139	0.24	0.812
隠れネット依存	0.018	0.342	0.734
軽い懲罰意識	0.164	2.155	0.038***
ネットを深く理解	0.211	2.087	0.044***
インターネットルール遵守	−0.039	−0.483	0.632
従属変数:炎上許容度			
サンプル数:40			
R2 乗:0..295			
調整済み R2 乗:0.214			

また炎上許容度と、ブログ訪問意向、炎上によるブログ著者評価の低下についても重回帰分析を行ったところ表１２の通りになった。

表 12　回帰分析結果

	B	t値	有意確率
(定数)	1.724	4.376	0
ブログ訪問意図	−0.176	−1.226	0.228
炎上によるブログ著者評価低下	0.32	0.411	0.023**
従属変数:炎上許容度			
サンプル数:40			
R2 乗:0.132			
調整済み R2 乗:0.085			

最後にコンジョイント分析の結果を重回帰分析で行った所以下の表１３の通りになった。

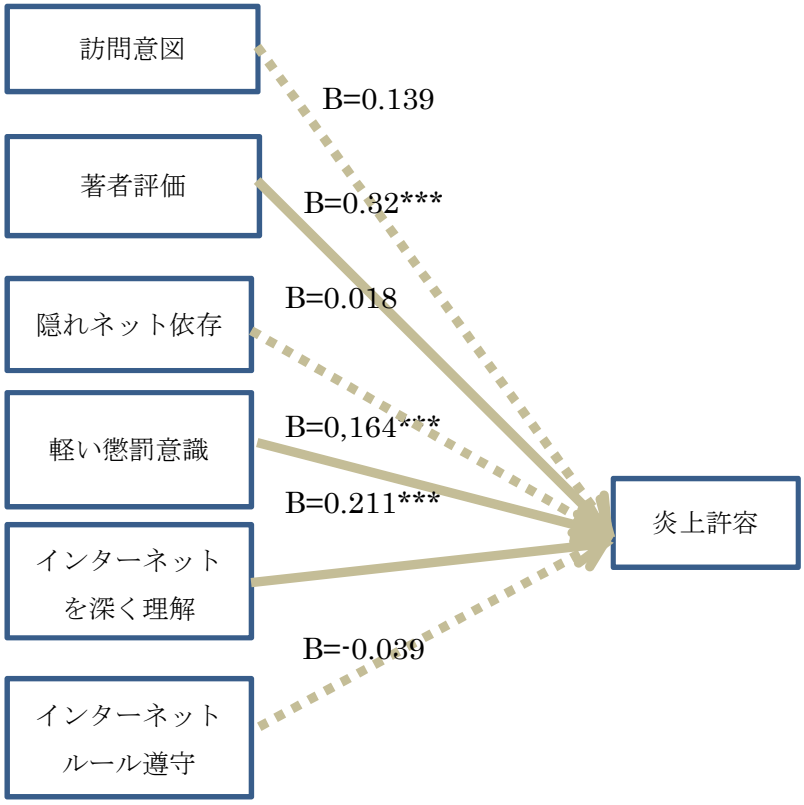
表 13　コンジョイント分析結果

定数	B	ｔ値	有意確率	
不謹慎	0.121	0.756	0.45	
反社会	0.121	1.056	0.291	
記事消す	0.132	-6.859	3.11E-11	***
コメント消す	0.132	-8.373	1.34E-15	***
1 日以内	0.157	4.563	6.95E-06	***
1 週間以内	0.012	2.928	3.00E-03	***
従属変数：炎上許容度				
サンプル数：３６０				
R2 乗値：0.185				
修正済み R2 乗値：0.171				

５－３－１－３．検定結果

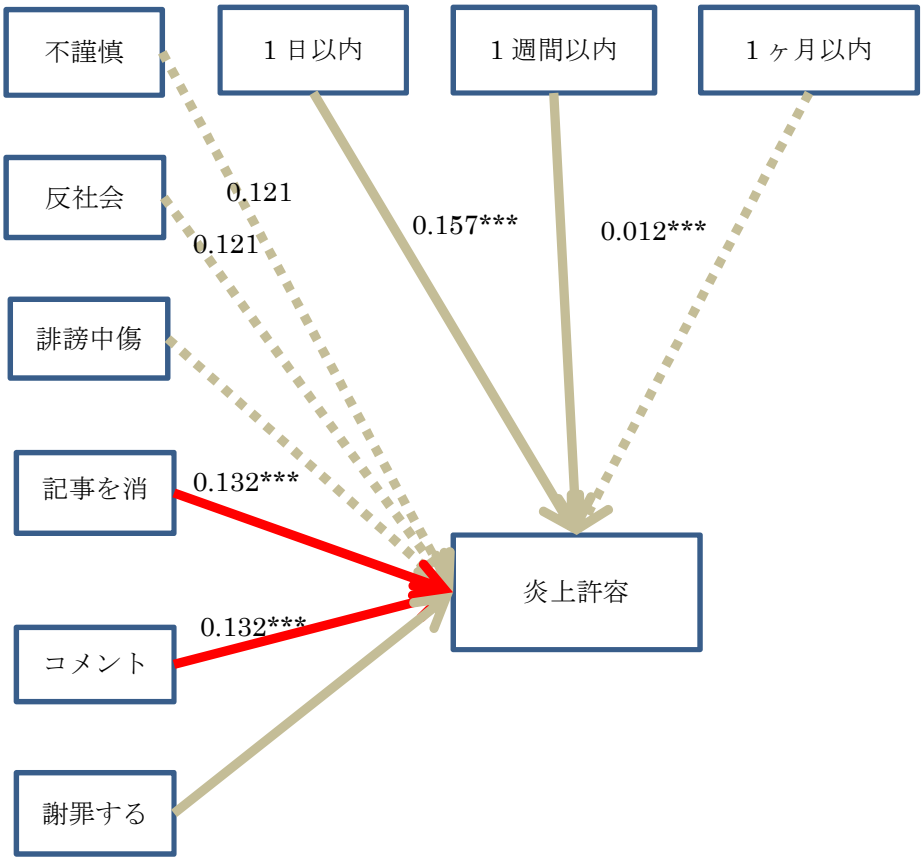
上記の分析結果により、仮説検定の結果は以下の通りである。

H1-1　炎上したブログの訪問意図と炎上許容には正の相関がある
→（B=0.139　p=0.22>0.1）より棄却
H1-2　炎上したブログの著者評価低下と炎上許容には正の相関がある
→（B=0.32　p=0.023<0.1）より採択
H1-3　隠れネット依存を持つ人は炎上肯定に正の相関がある
→（B=0.018　P=0.342>0.1）より棄却
H1-4　軽い懲罰意識が高い人は炎上肯に正の相関がある
→（B=0.164　p=0.038<0.1）より採択
H1-5　インターネットを深く理解している人は炎上肯定に対し正の相関がある
→（B=0.211　p=0.044<0.1）より採択
H1-6　インターネットルール遵守度の高い人は炎上肯定に対し正の相関がある
→（B=-0.039　P=0.632>0.1）より棄却



H2-1　炎上しているブログ内容が不謹慎であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.45＞0.1）より棄却
H2-2　炎上しているブログの内容が反社会であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.291>0.1）より棄却
H2-3　炎上しているブログの内容が誹謗中傷であると炎上に正の相関がある
→棄却
H2-4　炎上しているブログ著者の対応が、記事を消すであるとであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.00<0.1　t 値=-6.859）より棄却
H2-5 炎上しているブログブログ著者の対応が、コメント欄を消すであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.539>0.1　t 値=-8.37）より棄却
H2-6 炎上しているブログブログ著者の対応が、謝罪するであると炎上に負の相関がある
→2-4 と 2-5 の負の採択により　採択

H2-7 炎上しているブログの著者対応が、1 日以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.157　p=0.00<0.1）より採択
H2-8 炎上しているブログ著者対応が、1 週間以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.012　p=0.00<0.1）より採択
H2-9 炎上しているブログ著者対応が、1 ヶ月以内であると炎上に負の相関がある
→2-7 と 2-8 の採択により　棄却


不謹慎
1 日以内
1 週間以内
1 ヶ月以内
反社会
0.121
0.121
0.157***
0.012***
誹謗中傷
記事を消
0.132***
炎上許容
0.132***
コメント
謝罪する

６．考察

分析結果を踏まえて、考察を行う。

６－１．検定結果一覧

先で行った分析結果一覧は以下の通りである。

H1-1　炎上したブログの訪問意図と炎上許容には正の相関がある
→（B=-0.176　p=0.22>0.1）より棄却
H1-2　炎上したブログの著者評価低下と炎上許容には正の相関がある
→（B=0.32　p=0.023<0.1）より採択
H1-3　隠れネット依存を持つ人は炎上肯定に正の相関がある
→（B=0.018　P=0.342>0.1）より棄却
H1-4　軽い懲罰意識が高い人は炎上肯定に正の相関がある
→（B=0.164　p=0.038<0.1）より採択
H1-5　インターネットを深く理解している人は炎上肯定に対し正の相関がある
→（B=0.211　p=0.044<0.1）より採択
H1-6　インターネットルール遵守度の高い人は炎上肯定に対し正の相関がある
→（B=-0.039　P=0.632>0.1）より棄却
H2-1　炎上しているブログ内容が不謹慎であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.45＞0.1）より棄却
H2-2　炎上しているブログの内容が反社会であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.291>0.1）より棄却
H2-3　炎上しているブログの内容が誹謗中傷であると炎上に正の相関がある
→棄却
H2-4　炎上しているブログ著者の対応が、記事を消すであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.00<0.1　t 値=-6.859）より棄却
H2-5 炎上しているブログ著者の対応が、コメント欄を消すであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.539>0.1　　t 値=-8.37）より棄却
H2-6 炎上しているブログブログ著者の対応が、謝罪するであると炎上に負の相関がある
→2-4 と 2-5 の負の採択により　採択
H2-7 炎上しているブログの著者対応が、1 日以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.157　p=0.00<0.1）より採択
H2-8 炎上しているブログ著者対応が、1 週間以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.012　p=0.00<0.1）より採択
H2-9 炎上しているブログ著者対応が、1 ヶ月以内であると炎上に負の相関がある
→2-7 と 2-8 の採択により　棄却

６－２．仮説ごとの考察

全体的に支持された仮説はなく、結果は予想と異なっている場合が多かった。
以下、項目ごとに考察を行う。

H1-1　炎上したブログの訪問意図と炎上許容には負の相関がある
→（B=-0.176　p=0.22>0.1）より棄却

炎上しているブログであれば、コメントや記事の内容が見る側からすると気分の悪いものであると考え、訪問意図に負の影響があると予想したが棄却されてしまった。先行研究から、訪問意図に負の影響があると考えたがならなかった。今回の設問では、炎上が単発か継続で起きているのか判断出来ないために、自分の予想と違った結果になったと考えられる。なので、今回の場合は 1 回や 2 回の炎上ということで考えられたために、全体的な訪問意図の低下には繋がらないものと考えられる。1 回や 2 回では何故予想と違ってしまったかというと、人間である限りミスは仕方ないと判断され、次回から気をつければかまわないと判断したためと考えられる。また“炎上したブログ“というのは、内容が漠然としており、回答者がどのような炎上かをイメージ出来なかった事が、仮説の棄却に繋がってしまったと考える。

H1-2　炎上したブログの著者評価低下と炎上許容には正の相関がある
→（B=0.32　p=0.023<0.1）より採択

著者評価の低下と炎上許容には相関があることがわかった。H1-1 では似たような内容ではあるが棄却され、こちらが採択されたのが驚きである。しかし、著者評価低下というのは、訪問意図よりも評価軸として軽い部分に位置するものであるのではないかと考える。著者は、ブログの訪問意図というのは、ブログ著者の人気度で決まると考えていた。しかし、ブログの内容が興味深い事・自分の興味あるジャンルについて書かれている事など、様々な要因を除いて考えていたため、このような結果になったと考えられる。

H1-3　隠れネット依存を持つ人は炎上肯定に正の相関がある

→（B=0.018　P=0.342>0.1）より棄却

隠れネット依存度の高さが炎上肯定に関わっていない事が分かった。理由として考えられるのが、依存度を高いと判断する質問項目の甘さがあると考えられる。インターネットを使わないと不安になるという事のみで依存度を測ろうとしたが、直接的な表現であったため実際はそのような使い方をしていたとしても、アンケートとして答えにかった可能性がある。また隠れという所もあり、炎上のような表だって活動しようと考えていないために、棄却されたと考えられる。

H1-4　軽い懲罰意識が高い人は炎上肯定に正の相関がある

→（B=0.164　p=0.038<0.1）より採択

軽い懲罰意識が高い人は炎上肯定に相関があることがわかった。先行研究や事例研究から懲罰意識（妬み、ストレスなど）が炎上を起こす理由としてあると予想していたが、その通りとなった。またこの因子はインターネット上でのカキコミを軽視するという要素も含まれており、炎上に対してそれほど深く考えていないと考えられる。そのため、自身が炎上に荷担しているという意識よりも、皆がやっているからやってみようなどと考えられる。

H1-6　インターネットルール遵守度の高い人は炎上肯定に対し正の相関がある

→（B=-0.039　P=0.632>0.1）より棄却

ネットルール遵守と炎上肯定には相関が見られなかった。先行研究にもあったように、インターネットのルールを守る人は、ブログの炎上に対して嫌悪感を抱くために炎上を肯定しない、または炎上は悪い事であり良く無いという考えがあるためだと考えられる。

H1-5　インターネットを深く理解している人は炎上肯定に対し正の相関がある

→（B=0.211　p=0.044<0.1）より採択

インターネットを深く理解している人は炎上肯定に対し正の相関がある事が分かった。因子の質問から推測すると、炎上に対して進んで肯定しているという事より、炎上はネットにつきものであり仕方ないという事で肯定していると考えられる。

H2-1　炎上しているブログ内容が不謹慎であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.45＞0.1）より棄却
H2-2　炎上しているブログの内容が反社会であると炎上に正の相関がある
→（B=0.121　p=0.291>0.1）より棄却
H2-3　炎上しているブログの内容が誹謗中傷であると炎上に正の相関がある
→棄却

どのブログ内容であっても棄却されてしまった。炎上に関してブログの内容はあまり関係無いということが分かった。このことから、見る側としては、どんな内容であっても炎上には変わりないと判断するのではいかと考えられる。

H2-4　炎上しているブログ著者の対応が、記事を消すであるとであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.00<0.1　t 値=-6.859）より棄却
H2-5 炎上しているブログブログ著者の対応が、コメント欄を消すであると炎上に負の相関がある
→（B=0.132　p=0.00>0.1　　t 値=-8.37）より棄却
H2-6 炎上しているブログブログ著者の対応が、謝罪するであると炎上に負の相関がある
→2-4 と 2-5 の負の採択により　採択

謝罪について採択された。事例研究においては、誠意を持って謝罪をすることは、炎上を鎮火させ新たなファンをつかむことに繋がるとあり、それが証明された形となった。また、採択に繋がった理由としては、ブログ以外に多くの不祥事や失敗において、謝罪をすることが一区切りとする風潮があるため、ブログにおいても謝罪が炎上鎮火にもなると考えられる。
また記事を消す・コメントを消すというのが負の相関が出たということは、元のデータを消すということは、逆にさらに炎上してしまう形となる事が分かった。特にコメントについては強く負の相関が出た。

H2-7-1 炎上しているブログの著者対応が、1 日以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.157　p=0.00<0.1）より採択
H2-7-2 炎上しているブログ著者対応が、1 週間以内であると炎上に負の相関がある
→（B=0.012　p=0.00<0.1）より採択
H2-7-3 炎上しているブログ著者対応が、1 ヶ月以内であると炎上に負の相関がある
→2-7-１と 2-7-２の採択により　棄却

ブログの対応においては、1 週間以内と 1 日以内というのが採択された。事例研究においては、素早い対応が炎上鎮火に役立つとあり、先行研究にもこのような結果が出ていたことから、それが証明される結果となった。しかし、ｔ値を見ると 1 週間以内より 1 日以内のほうが高く、より早い対応が重視されるという事が分かった。このことから、ユーザーの目が年々厳しくなってきているということが伺える。

７．実務へのインプリケーション

今回の研究により、炎上について許容する人は、軽い懲罰意識を持つ人、インターネットに関する理解が深い人が該当した。また、炎上はブログ著者の評価を下げると言うことがわかった。そしてコンジョイントの結果から謝罪する事、早期（1 週間以内）に対応する事が炎上に対して有効であることも分かった。

以上の事から、ネットについて理解ある人には、炎上に対する理解があり、逆にネットについての理解がない人にはブログの炎上に理解が得られない事がわかった。

このことから、ネットに理解が少ない一般人に対して、ブログ炎上した場合は理解を得られないために、早期（1 週間以内）にブログ上にて謝罪をする事が良いことが分かった。本研究においては、ブログの炎上が著者の活動や売り上げに対して、どの程度影響を及ぼすかが分からなかったため、追加の調査が必要だと考えられる。しかし、ブログ訪問意図は棄却されず、著者評価だけが採択されたことから、炎上の度合いにもよるだろうが、大きな影響はあまりないと考えられる。

なによりも 1 番大事なのは、炎上を起こさないようにすることだが、先行研究の山下ら（2005）から分かるとおり、ブログは内輪向けに使うものであるため、内輪以外に触れた際に炎上に成る確率はある。そのために、誰に見られてもよい用な文章を書くように気をつける、また見る人に対しても、ネットリテラシーをつける・炎上という構造の理解をして貰う事が、今後の炎上阻止に役立つと考えられる。

８．反省点・今後の課題

今回の反省点としては、アンケート作成における面に問題があったと考えられる。本研究と同じ研究があまりなかった故に、因子が曖昧としたものになり、因子設定する質問においても問題があったと考えている。特にインターネット依存に関する事は直接的表現すぎ実際にアンケート回答者が依存していたとしても、回答を得られなかったと考えられる。
そして、因子につき質問数が３～４問と少なく分析する上での選択肢も狭まり良い分析結果が得られなかった。

コンジョイント分析においては、項目ごとにつくり選択式にしたが、項目だけではイメージがつかなかったのか、項目間に差が出ずに結果が出なかった。もしやるのであれば、シナリオ式で３～５つほど炎上したブログのストーリーを設定し、そこから分析するべきだったと考えられる。

炎上の度合いを決定しなかった点も、回答者を困惑させてしまったと考えられる。1 回のブログ記事においてコメントがいつもより多く来てしまった、沢山のコメントが来てしまった、継続的に更新する記事に対してもコメントが殺到しまった、などの尺度を作る事により違った結果が出たのではないかと考えている。

今後の課題としては、Twitter やフェイスブックに対応した炎上発生の分析の方法を見つける事だと考えている。今年に入り、炎上はブログよりも Twitter やフェイスブックへと流れが移ってきており、今後はさらに流れていくものと考えられる。そのため、それらに対応した分析方法を確立する事だと思われる。

また炎上に対する炎上に参加していない多くの一般人の炎上に対するイメージをもっと集める事により、炎上に対する対策がもっと変わっていくかも知れない。

以上が反省点と今後の課題となる。

参考文献

- アダム・N・ジョインソン　訳：三浦麻子他　「インターネットにおける行動と心理」
- 高比良　美詠子　1999　「NEW 教育とコンピュータ 15」
- 辻　大介　2008　「インターネットにおける『右傾化』減少に関する実証研究」
- 中川淳一朗　2010　「ウェブを炎上させるイタい人たち」
- 菱山　和亮　2009　「項目反応理論を用いたインターネット依存傾向尺度の検討」
- 平井　智尚　2004　「インターネットにおける『ブログ炎上』に関する考察」
- 増木　大己　2009　「何故ブログは炎上するのか」

- ソーシャルメディアでの対話で、礼儀や秩序は守られるか？～SIDE モデル　2011 http://blog.your-insight.net/?eid=104
- 伊地知　晋一　実例に学ぶブログ炎上　http://ascii.jp/elem/000/000/425/425676/
- 長島昭久　ＷｅＢｌｏｇ「翔ぶが如く」 http://blog.goo.ne.jp/nagashima21/m/200602
- カメつうＢＬＯＧ　http://kamedaseika.cocolog-nifty.com/
- 情報通信白書　2011
- GameBusiness.jp　アメーバピグのユーザー属性は? そして 15 歳以下規制の影響は?・・・「データでみるゲーム産業のいま」第 10 回 http://www.gamebusiness.jp/article.php?id=5708

付属資料

調査票

この度、慶應義塾大学商学部濱岡豊研究会における論文作成に当たりアンケートを実施することになりました。本アンケートの調査結果は論文作成以外の目的で使用することはございません。 誠に恐縮ですが、以上の主旨を御理解いただいた上で本アンケートにご協力頂きますようよろしくお願い致します

本アンケート内での“炎上”の意味は
　　ブログにおいて　短時間の間にコメント欄に批判的なコメントが殺到している事と定義します

以下の質問にお答えください
Ａあなたのプロフィールを教えてください
Ｑ１（男・女）
Ｑ２ 年齢（　　）歳
Ｑ３ 職業 （学生、社会人、フリーター、その他）
Ｑ４ １日にどれくらいネットを利用しますか？
１：３０分以下　２：３０分以上１時間以下　３：１時間以上１時間３０分以下　４：１時間３０分以上２時間以下
Q5　１日にどれくらいテレビを見ますか？
１：３０分以下　２：３０分以上１時間以下　３：１時間以上１時間３０分以下　４：１時間３０分以上２時間以下
Q6　１日にどれくらいブログを見に行くか？
１：０個　２：１～３個　３：３～５個　４：５～８個　５：８～１０個
Q7　ブログを書いていますか？
１：はい　２：いいえ
Q8　利用頻度はどのくらいですか？
１：毎日　２：2～3 日に１回　３：週に１回　４：半月に１回　５：月に１回
Q9　よく見に行っているブログにコメントは残しますか？
１：はい　２：いいえ
Q10　どの程度残しますか？
１：毎回　２：2～3 回に１回　３：3～5 回に１回　４：5～7 回に１回
５：7～10 回に１回
Q11　炎上を見た事があるか？

１：はい　２：いいえ

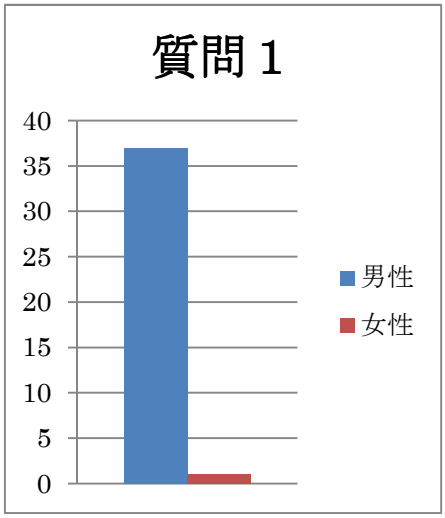
Q12　見た事ある方は、どの程度ですか？
１：1～2 回　２：2～3 回　３：3～5 回　４：5～7 回　５：それ以上
Q13　炎上について仕方ないと思うか？
（５とてもそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q14　炎上しているブログを見ると、ブログ著者の印象がさがりますか？
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q15　炎上しているブログで著者が放置しているのを見ると評価が下がりますか？
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q16　炎上しているブログで著者が何かしらの対応をしていると評価があがりますか？
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q17　定期的に見ていたブログが炎上していると見に行こうと思わなくなりますか？
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q18　インターネットのない生活は退屈で、むなしくわびしいだろうと不安に思う事がある
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q19　どれだけ長くインターネットを使用していたかを人に隠そうとしがちである
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q20　お気に入りのウェブサイトは毎日チェックしないと不安である
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q21　インターネットは暇つぶしの最良ツールだと思う
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）

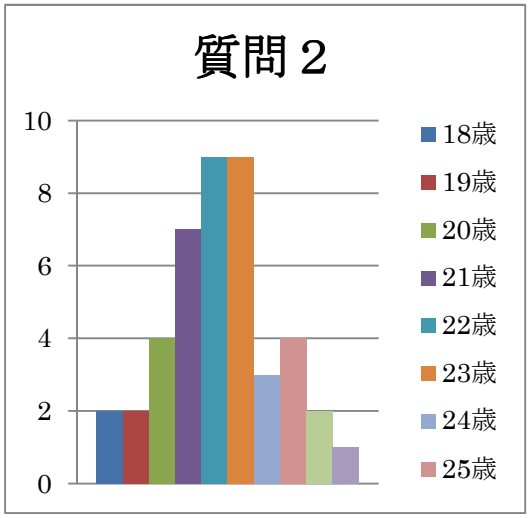
Q22　悪いことをしたのであれば、罰を受けるのは当然である
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q23　ネットに叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q24　正当な理由があればネット上で叩いてもかまわないと思う
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q25　インターネット上には個人情報を書かないようにしている
（５全く書かない　４ほとんど書かない　３どちらとも言えない　２たまに書いてしまう　１よく書き込んでいる）
Q26　掲示板に書き込む際にはルールを確認する
（５非常によくしている　４よくしている　３どちらとも言えない　２すこししている　１全くしていない）
Q27　他人に迷惑になるような悪口を書き込まない
（５全く行わない　４ほとんど行わない　３どちらとも言えない　２少し行っている　１結構行っている）
Q28　ネット上で過激なカキコミや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q29　ネットはあくまで見て楽しむモノで、積極的に参加するようなものではない
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）
Q30 ネットに人を傷つけるような情報が載るのは仕方のない事だ
（５非常にそう思う　４そう思う　３どちらとも言えない　２そう思わない　１全くそう思わない）

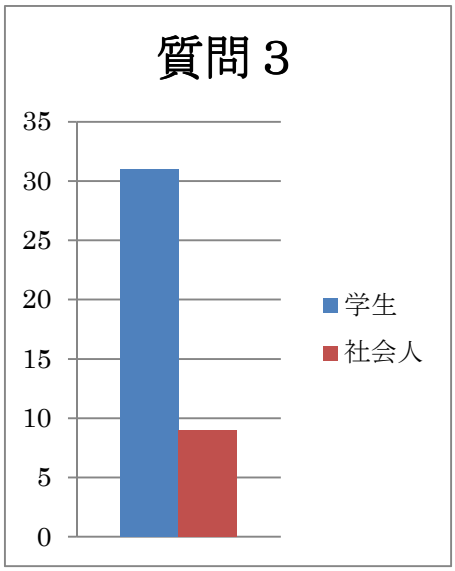
不謹慎：社会に大きな影響を与えた事件を題材として、それらを比喩すること 反社会：犯罪行為を行う事を自慢する 誹謗中傷：根拠がなく相手の悪口をいう事				非常に炎上しても仕方ないと思う	炎上しても仕方ないと思う	どちらとも言えない	炎上するほどではない	炎上する必要性がない
	ブログの炎上タイプ	著者の対応	対応までの時間	1	2	3	4	5
A	不謹慎	記事を消す	1日以内にする	1	2	3	4	5
B	不謹慎	コメント欄を消す	1週間以内にする	1	2	3	4	5
C	不謹慎	謝罪する	1ヶ月以内にする	1	2	3	4	5
D	反社会	記事を消す	1週間以内にする	1	2	3	4	5
E	反社会	コメント欄を消す	1ヶ月以内にする	1	2	3	4	5
F	反社会	謝罪する	1日以内にする	1	2	3	4	5
G	誹謗中傷	記事を消す	1ヶ月以内にする	1	2	3	4	5
H	誹謗中傷	コメント欄を消す	1日以内にする	1	2	3	4	5
I	誹謗中傷	謝罪する	1週間以内にする	1	2	3	4	5

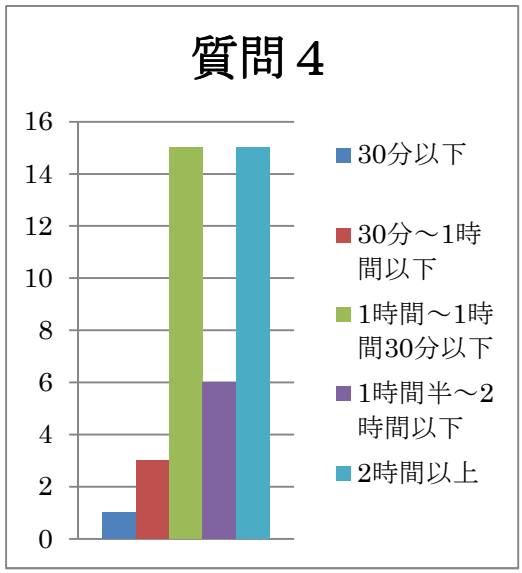
以上となります
ご協力ありがとうございました。

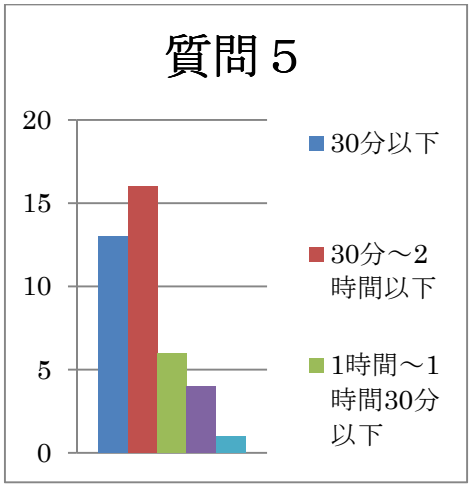
単純集計結果

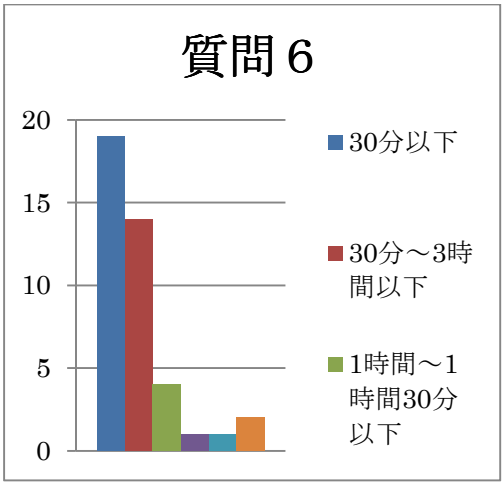

質問１
40
35
30
25
20
15
10
5
0
男性
女性

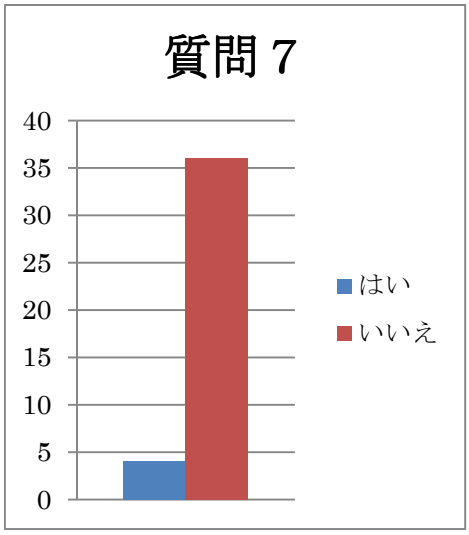

質問２
10
8
6
4
2
0
18歳
19歳
20歳
21歳
22歳
23歳
24歳
25歳

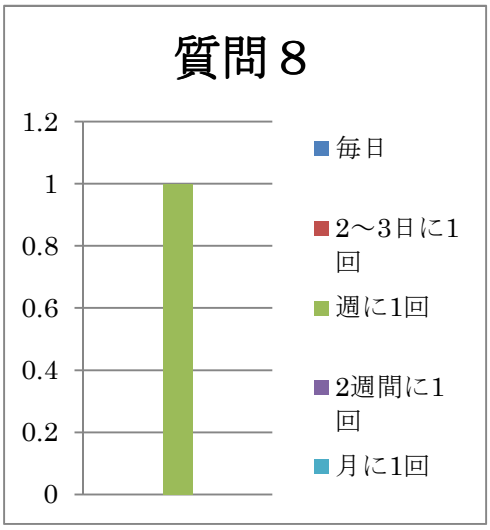

質問３
35
30
25
20
15
10
5
0
学生
社会人

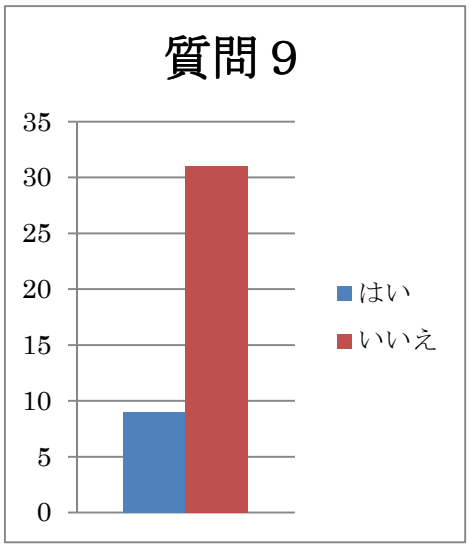

質問４
16
14
12
10
8
6
4
2
0
30分以下
30分～1時間以下
1時間～1時間30分以下
1時間半～2時間以下
2時間以上

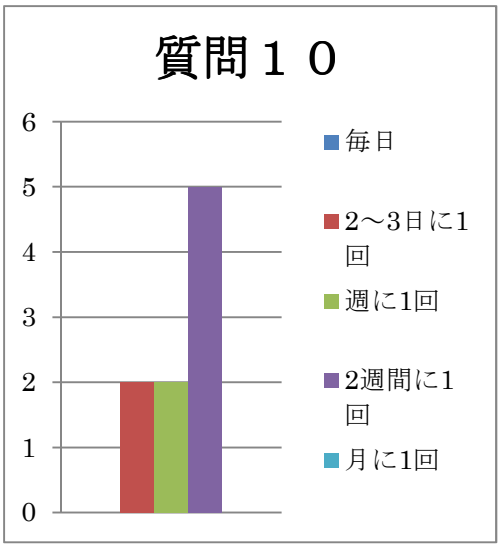

質問５
20
15
10
5
0
30分以下
30分～2時間以下
1時間～1時間30分以下

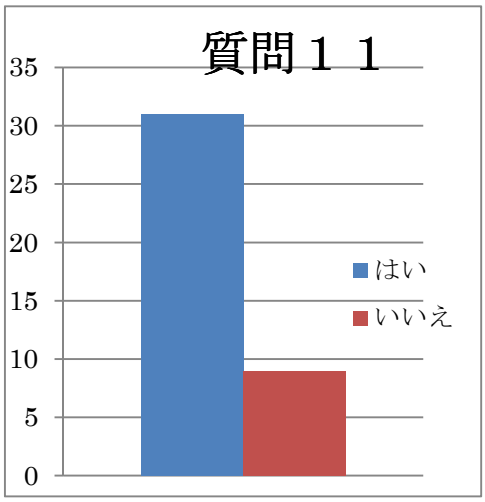

質問６
20
15
10
5
0
30分以下
30分～3時間以下
1時間～1時間30分以下

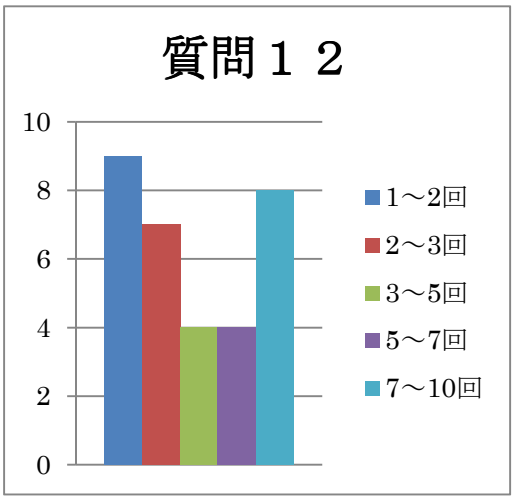

質問７
40
35
30
25
20
15
10
5
0
はい
いいえ

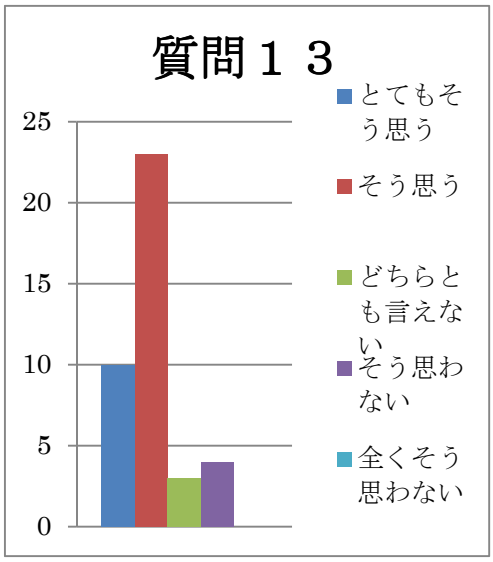

質問８
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
毎日
2～3日に1回
週に1回
2週間に1回
月に1回

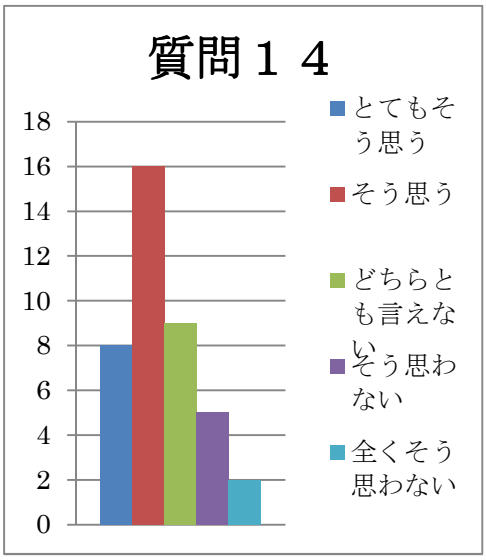

質問９
35
30
25
20
15
10
5
0
はい
いいえ

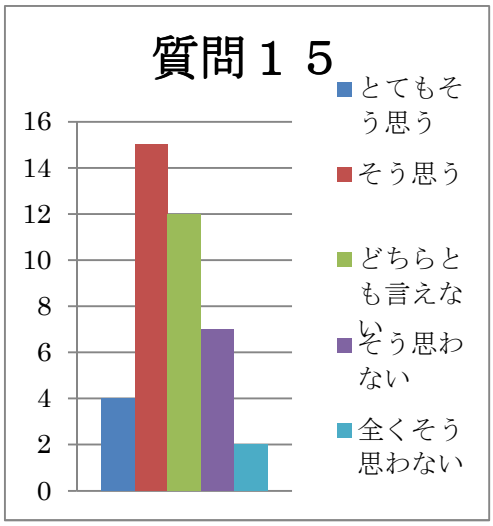

質問１０
6
5
4
3
2
1
0
毎日
2～3日に1回
週に1回
2週間に1回
月に1回

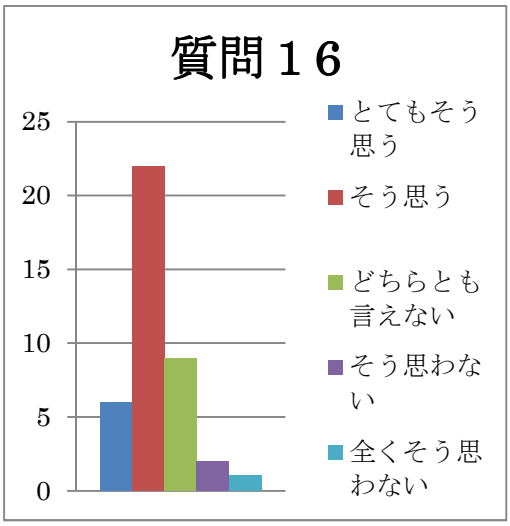

質問１１
35
30
25
20
15
10
5
0
はい
いいえ

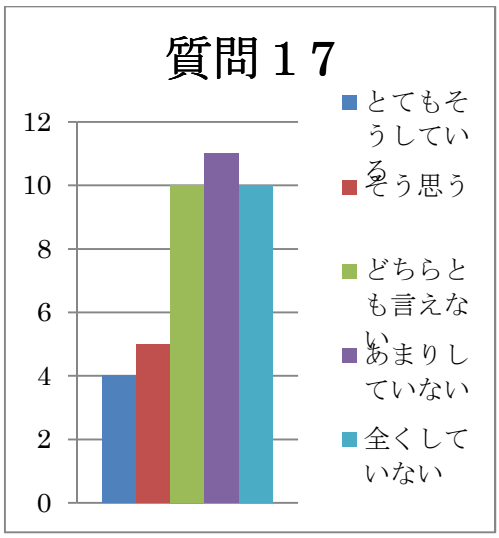

質問１２
10
8
6
4
2
0
1～2回
2～3回
3～5回
5～7回
7～10回

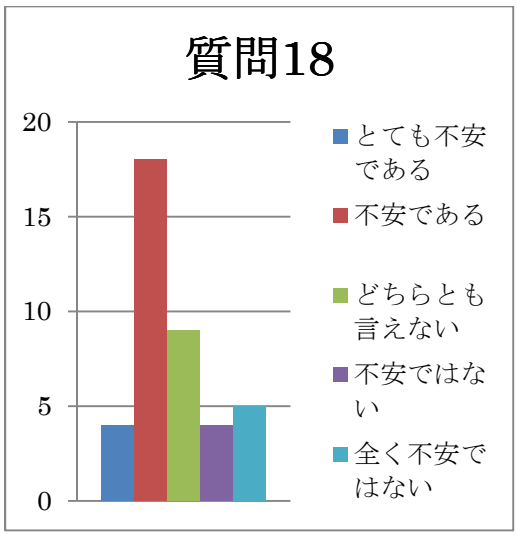

質問１３
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない

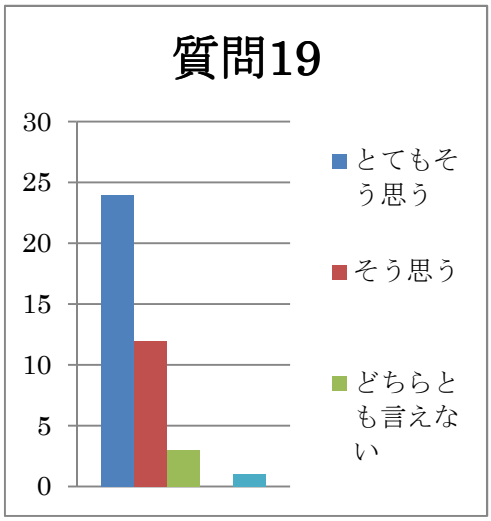

質問１４
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない

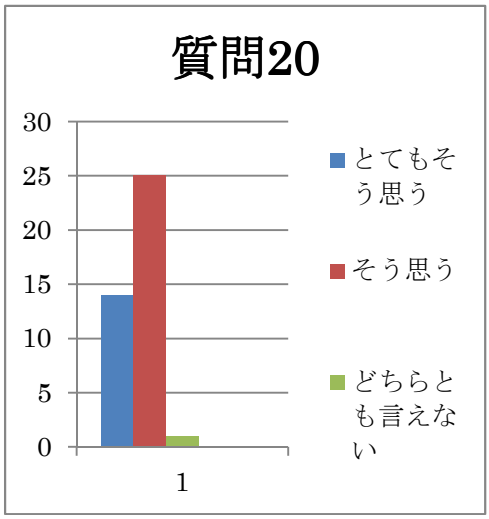

質問１５
16
14
12
10
8
6
4
2
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない

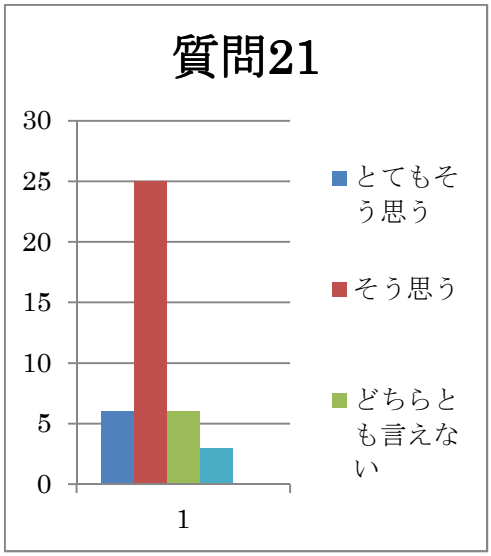

質問１６
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない

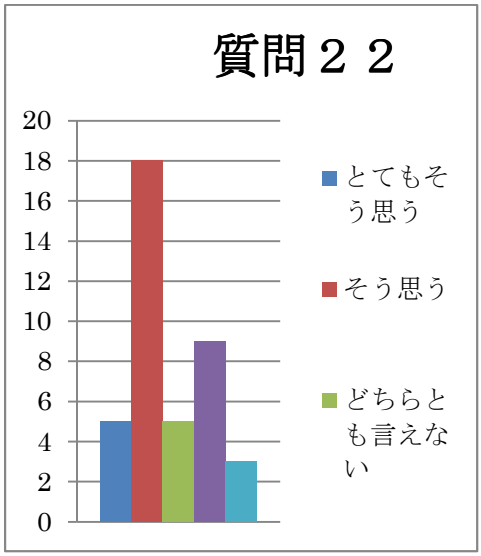

質問１７
12
10
8
6
4
2
0
とてもそうしている
そう思う
どちらとも言えない
あまりしていない
全くしていない

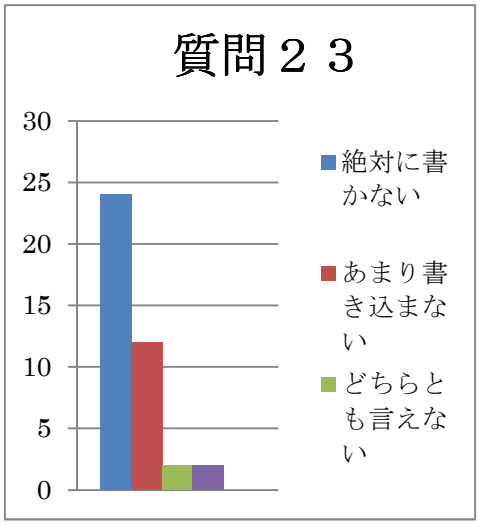

質問18
20
15
10
5
0
とても不安である
不安である
どちらとも言えない
不安ではない
全く不安ではない

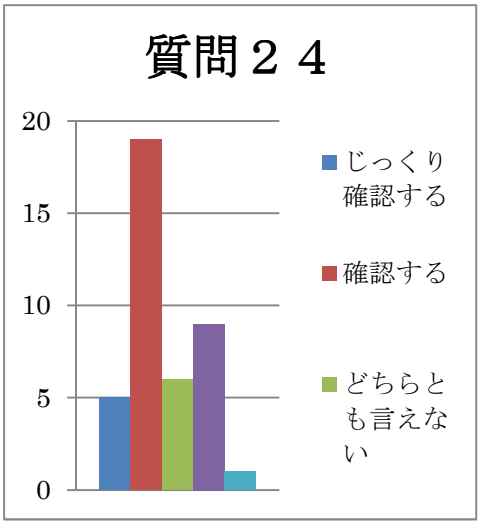

質問19
30
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない

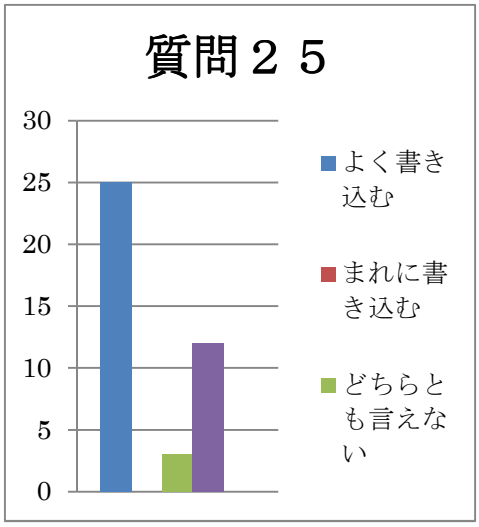

質問20
30
25
20
15
10
5
0
1
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない

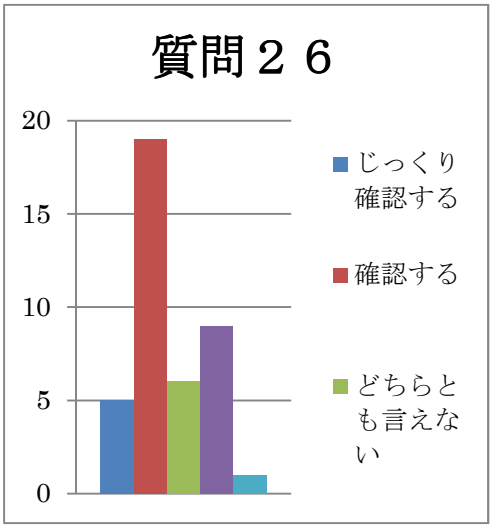

質問21
30
25
20
15
10
5
0
1
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない

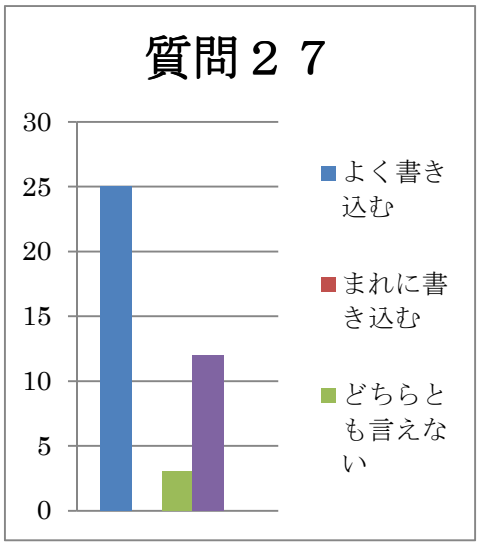

質問２２
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない

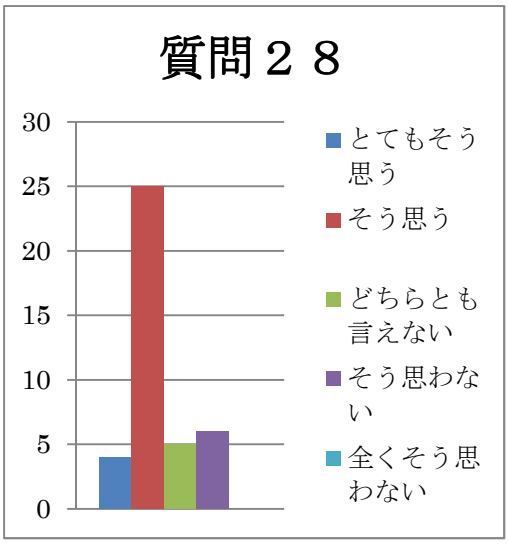

質問２３
30
25
20
15
10
5
0
絶対に書かない
あまり書き込まない
どちらとも言えない

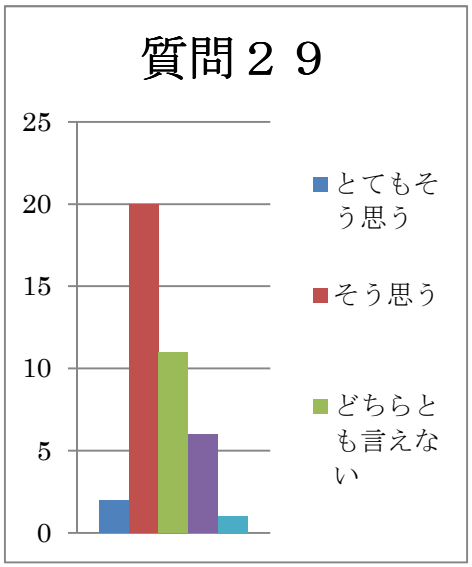

質問２４
20
15
10
5
0
じっくり確認する
確認する
どちらとも言えない

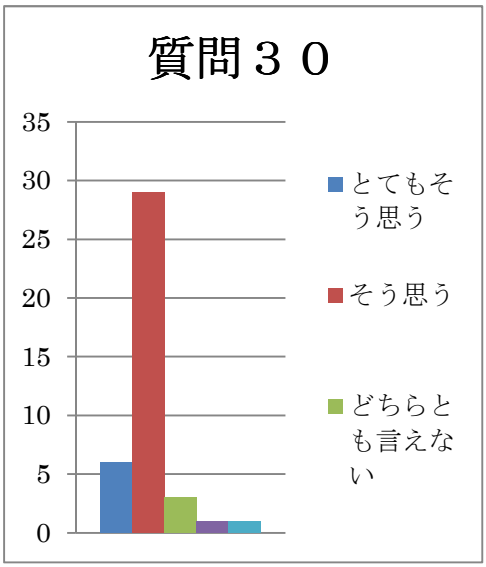

質問２５
30
25
20
15
10
5
0
よく書き込む
まれに書き込む
どちらとも言えない


質問２６
20
15
10
5
0
じっくり確認する
確認する
どちらとも言えない


質問２７
30
25
20
15
10
5
0
よく書き込む
まれに書き込む
どちらとも言えない


質問２８
30
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない


質問２９
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない


質問３０
35
30
25
20
15
10
5
0
とてもそう思う
そう思う
どちらとも言えない